



永野英樹

ピアノ・リサイタル

長くあたたためてきた リストの《口短調》

芹澤一美

ながの ひでき
パリ国立高等音楽院を首席で卒業。パリを中心としてヨーロッパ各地で演奏活動を行い、'95年P・ブレーズが主宰する「アンサンブル・アンテルコンタンポラン」のソロ・ピアニストとして迎えられる。'90年マリア・カナルス国際コンクール、'92年モントリオール国際音楽コンクール、'94年第1回20世紀ピアノ音楽国際コンクール入賞。'98年村松賞と出光音楽賞を受賞。'99年にショパン協会賞を受賞。CD「ラヴェル・ピアノ作品集」(DENON)他をリリース。現在、フランス在住。



写真提供:コンサートイマジ

「夜のプログラム全体は、永野さんのこれまでを振り返るような選曲になっている。中学時代に弾いた《水の戯れ》、高校

21世紀の音楽界を担う若い音楽家を紹介するシリーズとして好評の紀尾井ホール・リサイタルシリーズ「21世紀の新しい波」その第13回に登場するのが、パリを拠点として音楽活動を続けている永野英樹さんだ。

永野さんは'95年から、ブレーズ主宰のアンサンブル・アンテルコンタンポランでピアニストとして活動している。年間のほとんどを、このアンサンブルの公演とその準備で費やす。演奏会は、拠点とするホールでの公演の他、フランス国内の地方公演や海外公演もあり、日本に戻るのはいせいに年に2、3回。1年のほとんどを現代音楽

【リサイタル】

【曲目】
ラヴェル《水の戯れ》/武満徹《閉じた眼1》/ブラームス《3つの間奏曲》作品117/ショパン《スケルツォ第3番》嬰ハ短調作品39/リスト《ピアノ・ソナタ》口短調

3月10日(日) 14:00開演
勝田台文化センターホール(千葉県八千代市)
クラシックシリーズコンサートVol.28
問合せ:八千代市文化振興財団 ☎047-483-5111/勝田台文化センター ☎047-483-2141

3月13日(水) 19:00開演
紀尾井ホール
リサイタル・シリーズ 21世紀の新しい波Vol.13
問合せ:紀尾井ホールチケットセンター ☎03-3237-0061 (10:00~19:00日・祝休)

【その他の公演】

3月21日(木・祝) 14:00開演
水戸芸術館コンサートホールATM
野平一郎+永野英樹ピアノ・デュオ
企画・構成・司会:間宮芳生
問合せ:水戸芸術館 チケット予約センター ☎029-231-8000

3月22日(金) 19:00開演
東京文化会館 大ホール
矢崎彦太郎 首席客演指揮者 就任披露特別演奏会
問合せ:東京シティ・フィル チケットサービス ☎03-5704-2002 (平日10:30~18:00)
ホームページ:www.cityphil.jp

時代に試験で弾いたショパン《スケルツォ第3番》、「コンセルヴァトワール時代に練習した武満《閉じた眼I》など……。そうして背景を、聴衆は自らの経験と重ね合わせながら聴くのもおもしろい。

現代音楽演奏家との印象が強い永野さんだが、現代音楽に本格的に取り組んだのはブレーズのアンサンブルに参加してからのこと。古典やロマン派といった基礎と土台をしっかりと弾き込んだからこそ、現代音楽を弾くことができた、と当時を振り返る。

「入団のオーディションには、毎回必ず課題曲に古典が入ります。ちなみに自分の時は(ベートーヴェンの)《熱情》の第1楽章でした。古典をしっかり勉強していないと現代音楽は弾けません。緊張があっても、緩やかならぬ音楽の筋道をつかんで音楽をつくることにおいては、古典も現代音楽も、音楽の本質はまったく同じですから」



たけもと きょうじ
武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科有鍵盤器専攻ピアノ専修卒業。国立音楽院ピアノ調律科にて学ぶ。'81年のデビュー後、NHK-FM番組で演奏。数多くのコンサートやリサイタルを開催。コレベイトゥアとしても、オペラの公演や著名声楽家のマスターコースに参加。日本におけるJ.N.フンメル研究の第一人者。演奏活動と共に、「ピアノ構造学」「ピアノ改良史」「ピアノ奏法史」の研究者として活躍し、講演、レクチャー、評論、執筆を行う。著書に「ピアノを読む」がある。現在、日本J.N.フンメル協会会長。スロヴァキア・J.N.フンメル国際基金・文化遺産保護協会名誉会員。スロヴァキア、ベートーヴェン協会会員。



写真提供:日本J.N.フンメル協会

日本初演のものもあると思います。それにバイエルやブルクミュラーの曲まで入っています！しかも有名曲はそのまま演奏するのではなく4手にアレンジしたり、

岳本恭治

日本J.N.フンメル協会特別例会 ピアノ300年グラン・フェスティバル

ピアノを読む・ピアノを聴く

坪田由香

3月31日(日)、紀尾井ホールでピアノ誕生から約300年を記念して、世界初のピアノ曲・ジュスティエーニの《ソナタ》から近・現代までの約40曲を、7人のピアニストが2手から12手の演奏とお話で綴るといふ画期的なフェスティバルが開催される。

「1709年にピアノが発明されてから今日に至るまで、各世代によって異なる楽器の機能や、それに伴い変化する奏法、様式などすべてを俯瞰したいという想いがあったのですが、今回はそれを実際に音にしたものをみなさんに聴いていただきます」と、主催者・日本J.N.フンメル協会の会長で、ピアニスト、音楽ジャーナリストとして活躍中の岳本恭治氏。昨秋に「ピアノを読む」(音楽之友社)を出版、ピアノ音楽に関するさまざまな要素が凝縮されて

おり、内容の奥深さと充実度から、手元に置いておきたい1冊！と好評を得ているが、今回はそれを「耳で聴く」ということになるわけだ。

「第1部はバロック・ロココ時代から古典派まで、第2部はロマン派から近・現代の作品を並べました。有名曲はもちろん、モシェレスの《ロンド》やドライシヨックの《ファンタジー》など楽譜が手に入りづらい、知られざる名曲も聴いていただきますが、おそらく日本初演のものもあると思います。それにバイエルやブルクミュラーの曲まで入っています！しかも有名曲はそのまま演奏するのではなく4手にアレンジしたり、

日本J.N.フンメル協会世界公認記念特別例会
ピアノ300年グラン・フェスティバル
第1部・第2部

3月31日(日)
14:00開演 記念式典・グランフェスティバルI
18:00開演 グランフェスティバルII

紀尾井ホール
【出演者】
案内・ピアノ:岳本恭治
作曲・ピアノ:雁部一浩/ピアノ:山季布枝/
藤川順子/八木原由夏/小柳信道/間瀬紀子

【曲目】
ジュスティエーニ:《ソナタ》作品1より/ウェーバー:《舞踏への勧誘》/バイエル:《練習曲》より/パダルジェフスカ:《乙女の祈り》《聞き届けられた祈り》/ショパン:《エチュード「木枯らし」》/リスト:《ラ・カンパネッラ》/バルトーク:《アレグロ・バルバロ》/雁部一浩:《ピアノのための幻想曲》作品25 他

問合せ:
東京劣音 ☎03-3204-9933
日本J.N.フンメル協会
☎&FAX 03-3425-5571
ガブリエル・ムジカ
☎&FAX 03-3904-9055